

幽討余録・護園遺編

『幽討余録』は曾我耐軒著で、嘉永五（1852）年の自序があり、慶應元（1865）年刊（蘭雪斎蔵板）。

掲載文頭に『護園遺編』とあるのは、荻生徂徠の著であるが、正確な引文とは言い難いので、後に『護園遺編』の該当個所をあげる。この該当個所は『荻生徂徠全集』十八巻406頁よりのものであるが、同全集によれば『護園遺編』の成立年月日はきわめて曖昧であるので、徂徠の没年の享保十三（1728）年?としておく。

護園遺編云飯綱旧為_二信濃山名_一也山有_二天狗祠_一且傳_二妖術_一世呼為_二飯綱術_一即茶著尼術也又案信濃戸隠山越前日永嶽武蔵高尾山皆有_二妖神祠_一呼為_二飯綱神_一觀_二其圖_レ形而傳_レ之乃所謂天狗也今遠江秋葉山ノ祠世俗喧傳_二有_レ祈必應_一香火頻盛此亦為_二戸隠山神別祠_一仍為_二茶著尼天茶著尼梵神別号白狐王菩薩又貴狐天王可_レ知其實是狐也

『護園遺編』

○イヅナハ信州ノ山ノ名也、上ニダキニ天ノ祠アルユヘニ、
山ノ名ヲ以テ其法ニ名ヅク、其法ハ天竺ノ茶ダ耆キ尼天ノ法也、
法ヲ行フニ、抹香ヲタケバ不レ行、

註 『幽討余録』(DOI 10.20730/200009865) は日本古

典籍総合目録データベースに画像がある。46コマ
目。